

事業内容：ニューカマー支援

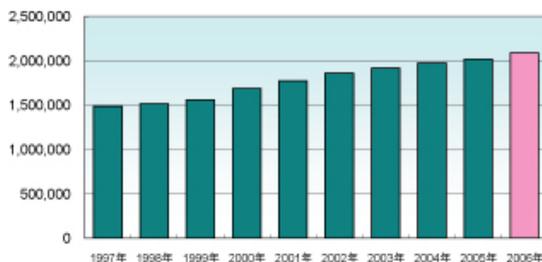
団体名：ママカマー

文教育学部 人文科学科 2年 M.C

1. 序論～ニューカマーの母親の孤立と苦しみ

日本に在住する外国人数は年々増えており、特にアジアからの移入が増えている。世界大戦中に強制送還されたオールドカマーに対し、それ以降に日本に入ってきた外国人をニューカマーと呼ぶが、このニューカマーの数が新大久保のコリアンタウンを象徴するようにだんだんと増えてきている。2006 年末現在における外国人登録者数は 208 万 4,919 人で、我が国総人口の 1.63%を占めている。(図 1 参照) 日本に仕事を求めてやってくる労働者も多く、中でも、重労働やサービス業についている人々は多い。一家で日本にやってくる場合や、先に夫が来て、後から家族がわたってくる場合もある。そんな家族を守っている、お母さん世代が今、家族や、社会から孤立してしまうという事態が起こっている。特に、専業主婦のお母さんたちである。夫は職場、子供は学校と、日本語で会話をしなくてはならない環境を持っているが、お母さんには強制的に出かけていかなければならない環境はない。夫や、子供はそういった生活の中で自然と日本語を使い、上達して言うけれど、お母さんにはそのチャンスがなく、しゃべれないとなると外に出かけていく勇気もなくなり、家にひきこもってしまいがちになる。夫や子供が日本での生活に慣れていくのに対して、自分は置いていかれ、疎外感、孤独感を感じざるおえなくなる。子供が日本語をどんどん吸収してしまい、母語を話すのに支障がでてくるぐらいになってしまった時、親との会話がしづらくなり、お母さんと子供のコミュニケーションがなくなると、お母さんは家族からも孤立してしまうといった事態が実際に起こってしまっている。特に、最近増えてきている、イスラム圏からのニューカマーは、さらに深刻で、もともとイスラム圏では、女性はあまり表には出て行かないものであるとされているので余計に家に引きこもってしまう。母親が一人、社会や家族から孤立して異国の日本で生活するのはどれだけ苦しく、寂しいことだろうか。

(図 1)



(2006 年法務省統計より)

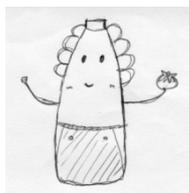
NPO 入門課題レポート

テーマ『 架空の NPO 事業計画の作成 』

2. 本論

a) 団体名 NAME : 「NPO 法人 ママカマー」… ‘ママ+ニューカマー’

b) 団体マーク MARK :



c) ビュー—VIEW :

ニューカマーの母親たちが、社会・家族から孤立することなく暮らし、家族内、家族間が仲良く暮らせる社会を実現すること

d) ミッション—MISSION :

ニューカマーの母親が社会・家族から孤立するのを防ぐこと

e) ゴール—GOAL :

- ①、週一回、同じ小中学校に通う子供を持つニューカマーの母親のための料理教室を開き、家から出かけるきっかけを作る。
- ②、月一回、ニューカマーと日本人のためのクッキング教室を開き、親子で出かける場を作り、親子・親子同士のコミュニケーションを図る場をつくる。

～なぜ料理教室か～

日本での生活に慣れたいならば日本語能力を真っ先に身につけるほうが近道かもしれないが、母親や主婦にとっては、日本語能力よりも日本での生活力が必要である。料理は主婦にとって大部分を占める日課であり、毎日やらなくてはならないことである。しかし、慣れない日本では、食材選びも簡単なことではない。日本にあるもので作れる料理のレパートリーを増やし、料理の悩みを少しでも解決していくためだ。ただストレートに日本語を学んでいくのではなく、料理を通して楽しみながら、日本語も同時に覚えていくスタイルである。また、食文化は異文化理解を深めるのにはひとつの重要なツールであり、一品の料理を通してその料理にこめられている意味や、その料理を食べる作法なども学べる。

NPO 入門課題レポート

テーマ『 架空の NPO 事業計画の作成 』

来日したばかりで、ほとんど日本語がしゃべれないとしても、ダンスや音楽のように見よう見まねでできるのが料理であり、例えレシピが読めなかったとしても、少しずつその材料名と実物を一致できるようになればよい。

費用の面でも、‘食費’だと思えば、参加費も払ってもらいやすいし、使い道がはっきりしていただいたい相場も分かるため透明性があるからだ。

- f) 目標-TARGET：ニューカマーの母親が、料理教室で日本語が上達し、日本生活のノウハウを身につけ、日本で友人をつくり、子供との会話も増え、日本で明るく楽しく生活してもらうこと。

g) 行動計画 PLAN：

i) 月一回の料理教室

場 所：地域の小中学校の調理室

日 時：子供たちの授業がなく教室が空いている時で、子供の授業中である
平日の日中

人 数：ニューカマーと母親合わせて 20 名程度

参加者：会員制などではなく誰でも参加でき、参加できる日に自由に行く

参加費：一回 500 円～1000 円（材料により変動）年会費等はなし。

内訳：材料/調味料/ガス代…400～900 円+諸経費

(コピー代+管理費)…100 円

講 師：料理上手なお母さん、NPOのスタッフ、時にはニューカマーのお母さん、家庭科の先生、ボランティアで協力してくれる料理研究家、大学生、料理サークル等

料 理：決して特別豪華である必要はなく、一般的な家庭料理や、日本料理、季節の食材に合わせた料理など

宣伝法：小中学校のHRの時間等に各担任の先生にプリントで配布してもらう
小中学校の廊下や掲示板にチラシを貼る
小中学校のPTAで宣伝する

～ゴール1で想定される成果～

- ニューカマーの母親は週一回でも、外に出かける用事ができ、外にでるチャンスが増える。それをきっかけに料理教室以外でも、外に足が向くようになる。
- 料理教室では、日本の家庭料理の味を覚え、日本でできる料理のレパトリーを増やす。教室で覚えたものを家で復習し、それを家族に食べてもらうことで家族の会話が増える。

NPO 入門課題レポート

テーマ『 架空の NPO 事業計画の作成 』

- 日本の調味料、材料なども同時に覚えることができ、買い物する時に母語表記がなくても苦労しなくなる。
- 日本の旬の食材を覚えることで日本の四季を実感することができる
- 日本人のお母さんや同じニューカマーのお母さん達と交流することで友人ができ、料理教室以外でも、どこかに遊びに行くなどと交流が盛んになる。
- 交流すればするほど日本語を使う機会が増えるため、日本語の会話力が向上し、日常生活が送りがやすくなる。
- 同じ小中学校に通う子供をもつ親同士として子育ての悩みを相談、共有できる。
- 近所に住む親同士として困ったときすぐに助け合える

ii) 月一回の親子料理教室

場 所：地域区民センターの調理室

日 時：親子ともに休みである土日または祝日

人 数：親子 20 組 40 名前後

参加者：週一回の料理教室よりも少々コミュニティーを広げて、その地域の区民なら誰でも参加可能。もし興味があれば親子でなく学生などの手伝い役も参加可。

参加費：一人当たり 500～1000 円。年会費等はなし。

内訳：材料/調味料/ガス代…400～900 円＋諸経費(コピー代＋管理費)
…100 円

講 師：料理上手なお母さん、NPO のスタッフ、時にはニューカマーのお母さん、ボランティアで協力してくれる料理研究家、大学生、料理サークル等

料 理：ニューカマーが講師となる場合は自分の国の料理を紹介してもらう。また、日本人講師の場合には、日本の年間行事にそったメニュー。

(例) ひなまつり…ちらしずし、

正月…おせち料理、

こどもの日…かしわもち等

宣伝法：区報に載せてもらう。往復はがきでの事前申し込み式。

応募多数の場合は抽選、最少催行人数は、5 組 10 名以上。

～ゴール2で想定される成果～

- ニューカマーの母親の外に出かけるきっかけができる
- ニューカマーの親子が一緒に出かけるきっかけができる
- 親子で一緒になにかする事で家族の連帯感がうまれる
- 料理を通して親子の会話が増え、母語保障にもつながる
- 毎週の料理教室よりも少し広いコミュニティの中に入っていき、きっかけができ、さらに交流の輪が広がる
- より多くの人と知り合うことでより多くの情報を得ることができ、日本で生活しやすくなる
- 料理教室で作った料理を家で復習するとまた親子の会話が増える
- 料理では、基本的に母親が主導権を握るため、日本語が子供より劣っていて引け目を感じている母親でも、母親としての威厳を子供にみせることができる
- 年中行事にあわせた料理を教えてもらうことで、日本の味とともに、日本の季節感、その料理のいわれ、日本の年中行事や文化を、料理を通して覚えることができる
- 母親だけでなく父親も参加すると、普段忙しくてあまり話せない父との会話をもつ機会にもなる
- 親子同士が仲良くなると、休日に親子同士で一緒に出かけたりと、どんどん交流が盛んになり、日本で楽しく生活できる
- 知り合いが増えれば、ニューカマーの母親も外に出かけていきやすくなり、孤立が防げる
- たくさん交流することで日本語のスキルアップを図ることもでき、日本の生活に慣れるスピードが速くなる
- 日本人親子は、ニューカマーの人たちと交流することで、異文化理解を深めてもらい、同じ地域に生きる住民として、‘住み分け’ではなく‘共生’・‘協力の意識を持ってもらう

NPO 入門課題レポート

テーマ『 架空の NPO 事業計画の作成 』

h) 予算 BUDGET :

(予想される経費)

- 料理教室開催のチラシや参加者名簿、HPをつくるための機器とその管理費…月 3000 円程度。機材は自分で持ち込み。
- チラシのコピー代…(10 円×20 人×月 4 回)+(10 円×20 組 40 人)=約 1300 円
- レシピのコピー代…(10 円×20 人×月 4 回)+(10 円×20 組 40 人)=約 1300 円
- 区民センターの使用代・・・一回 5000 円
- 材料費・電気ガス代…600 円(平均) ×20 人× 4 回+600 円(平均) ×40 人
=48000 円+2400 円=50400 円

◎支出：3000 円+1300 円+1300 円+5000 円+50,400=61,000 円 (月合計)

◎収入：参加費 700 円(平均)×20 人× 4 回+700 円×40 人=56,000 円(月合計)

(支出)61,000-(収入)56,000=5000 円

5000 円×12 ヶ月=6000 円

補助金：年間 60000 円

i) 第一の顧客：週一回の料理教室に参加するニューカマーのお母さん。

主に専業主婦。もちろん働いていても日程が合えば参加可能。

月一回の料理教室に参加するニューカマーの親子。

母と子、父と子、両親と子など親子であれば特に制限はない。

j) 第二の顧客：

- 週一回の料理教室を開く小中学校通う子供の日本人のお母さんたち
- 講師をやってくれる料理上手なお母さんやその知り合い
- 月一回の親子料理教室に参加する日本人の親子
- 国際交流や日本語教育に興味をもつ大学生
- 協力してくれる大学の料理サークル
(資金・物資支援)
- 週一回の料理教室を開く小中学校とその調理室
- その小学校の父母会 (PTA)
- その PTA の会費
- 月一回の料理教室を開く地域の区民センター
- 地元自治体からの補助金
- 講師をしてくれるボランティアの料理研究者

- 材料を提供してくれる地元の商店や農家

k) NPO の活動内容

- 参加者人数の把握・名簿作り
- 場所確保のための交渉
- 講師の確保
- 会計
- 参加者募集の広告づくり
- レシピづくり、翻訳
- 材料の買出し

1) 類似 NPO はあるか

インターネットで検索した結果、ニューカマーを第一の顧客とする NPO は数多くあるが、日本語教室や、ニューカマーの子供を対象とした事業がほとんどで、母親を対象とし、日本語ではなく料理教室を開く NPO は見当たらない。日本語教室を活動内容とし、その活動の中で単発でニューカマーのための料理教室を開いているものはあるが、ママカマーのように定期的で開催している NPO は検索した限りではないようだ。

3. 結論

本論であげた行動計画のように、週一回の同じ小学校内の母親という身近で共通点の多い人同士のコミュニティーに毎週参加し、外に出る機会が増えれば、それだけ身近に話せる友達ができる。友人の存在は日本での不安な生活の救いとなり、友人と一緒に日本での生活を楽しんでゆけるであろう。また、月一回の親子の料理教室では、地域という少し広いコミュニティーにでていくきっかけができ、さらに交流の輪が広まる。また、家庭内で孤立しないためにも、親子での会話を増やす機会となり、これを機に、家でも親子の会話が増えることが想定される。そして、すべての交流において、日本語能力のスキルアップが期待され、一人で外に出ていく勇気もでてくるだろう。友人、親子、家族とのつながりを強めることで、それぞれから孤立することなく、社会、家族の一員として、日本での生活を楽しく送っていけると考えられる。